

名 称	令和元年度第1回 鹿沼市総合計画審議会議事録
日 時	令和元年5月24日(金) 15:00~16:50
場 所	鹿沼市民情報センター 3階会議室
出席者	別紙のとおり
内容及び結果等	<p>(進行：矢口企画課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 委員の委嘱(新任委員7名) ○ 会長あいさつ ○ 部長あいさつ(糸井総務部長) ○ 市職員の紹介 ○ 議 事 <p>(1)「鹿沼市総合戦略」及び「地方創生交付金」の目標達成状況について 資料1 ⇒ 意見なし</p> <p>(2)「第7次総合計画」における主要事業評価について 資料2</p> <p>委 員：P8「小中学校の整備」に関して、整備が一部しか進んでいないように感じる。保護者から差別感を感じるとの発言もあることから整備に関する計画を明らかにしてほしい。P6「国際理解教育の推進」に関して、目標としてもっと適正な目標があるのでは？P7「特色ある学校づくり」に関して、学校長の判断であり教育委員会側で押し付けるのは違うと思う。P1「いちごっこ鹿沼の設置」に関して、面談100%実施はとても大切なのでぜひ100%を続けてほしい。</p> <p>事務局：「小中学校整備」に関しては、耐震状況、設備等の状況など総合的に勘案し、修繕や新築、設備更新などコストとの兼ね合いで計画立てている。ただ、情報提供の方法については理解を得られるよう検討課題とする。「国際理解教育」に関してはご指摘の通り。次期計画策定時には目標設定をもっと厳密にしていく。「特色ある学校づくり」に関しては、地域との連携やみんなで学校づくりをしていこうという流れ。教育委員会としても方向性が出ていない可能性高い。課題とし、次回までには方向性を示せるようにしたい。「いちごっこ鹿沼」に関しては、H29実績の記載はないが100%実施。</p> <p>委 員：逆線引きにより当該地域は見放されたと感じる地域住民の声を聴くことがある。地方創生の観点から、何か考えられないか。</p> <p>事務局：地方創生の観点からすると、コンパクトシティ+ネットワークという人口減少社会における持続可能性を優先しており、逆線引きの解消とは立場が逆。外すかどうかこの場で言えないが、立地適正化計画などの中で議論させてもらう。</p> <p>委 員：当時と今では時代が変わったのでどうかしてほしいという声があるので言わせてもらった。</p> <p>委 員：P13「市内企業への就業支援」に関して、子供たちが将来市内で働いてもらい安定的な人材確保ができるようになるため、次年度に向け強化してほしい。P12「新産業団地の整備」に関して、地権者の問題などもあると思うが、雇用創出など効果も高いことからスピード感をもって進めてほしい。P13「ビジネスチャンスの創出」に関して、結果が出るまでに時間を要する、継続支援をお願いしたい。</p> <p style="text-align: right;">【裏面に続く】</p>

事務局：「新産業団地」に関して、県とやりとりスケジュール通り進捗中。令和 4 年予約開始、令和 5 年分譲開始予定。複合的な雇用対策、税収増加等図っていく。「就業支援」に関して、外に出ていく子供が多い。就職時に帰ってくるためには家庭での郷土愛教育、醸成が大切。その観点では鈴木会長が南押原地区で進めている地域の夢実現事業などが効果的と考える。各種制度の検討や情報提供などと併せて課題としたい。「ビジネスチャンスの創出」に関して、来年度の計画策定時に新たな事業も含め検討課題としたい。

会 長：郷土愛の醸成は大切だと感じており、自治会活動でも頑張っている。

(3) 特にご意見をいただきたい主要事業について

1 「移住定住情報の発信」 資料3-1

委 員：アンケート結果のその他回答は？

事務局：2 番目は職の問題。3 番目は住環境、暮らしやすさ、4 番目は教育環境であったと記憶している。なお、このアンケートは携帯電話会社に委託し、ユーザーにネット回答してもらった結果。

委 員：文化関係者からは鹿沼はとて素晴らしい印象を持たれている。喫茶店などもっと多いと尚よいという市外の方の声がある。

会 長：イメージアップの為、文化面の強化という考え方もある。

委 員：移住者へのアフターフォローは具体的にあるのか？近所に移住者がいるが具体的なフォローはないと聞いている。

事務局：移住施策のスキーム作成に併せアンケートを実施した。その中に「どのようなフォローがほしいか」といった内容もあった。お金より人と人とのつながりが大切な部分もある。つながりを作る支援も含め今後の検討課題としたい。

会 長：移住者の心に寄り添うのは地域の仕事も大きい。移住者から「お金より近所の人が優しいことの方が大切」という声もあった。

委 員：ターゲットは？何をメリットに掲げるか、どう狙うかが変わってくるのでは？

事務局：ターゲット設定はとても重要。少子化の影響を考えれば20～30歳台の子育て世代をターゲットにするのが一般的。なお、知識と経験を次世代に残す意味でも年配の方の移住を制限するものではないし、幅広い支援を行っている。

【次ページに続く】

2 「工専地域の道路整備」 資料3-2

委員：新しく整備するだけでなく、ポールの色を変えるなどお金をかけなくてもまちの雰囲気は変えられる。工夫が必要。

事務局：PRの仕方では印象を良い方向に変えることは可能。シティプロモーション担当課にも伝え参考にする。

委員：議題の趣旨は？

事務局：当該地域の工業活用についてメリットは大きいと考えている。ただ、財源的な課題もある中で、優先順位をあげてもやるべきかご意見を伺いたい。

委員：過去に計画があったが実施されなかった経緯がある。このようなあやふやな状況では、また同じことになるのではと危惧する。

事務局：皆様の意見を総合すると、この事業について、積極的に実施するようということではよろしいか？

一 同：異議なし。

委員：財政負担軽減の観点から、住宅メーカーを活用し、住宅地として道路も一体に整備してもらってはどうか？

事務局：人口減少が進行する現状において都市計画上、住宅系用途を増やすことは実質不可能なのでご理解いただきたい。

3 「児童虐待防止対策」 資料3-3

委員：人員増加が難しい状況からすると、出生時から保健師が継続的に関わり、保健師と幼保小中が関わり、情報の共有を図ることが大切ではないか。保護者の了承が必要だということも理解できるが、虐待の当事者であることも踏まえ、学校を信用して情報を共有してほしい。

会長：行政の中で専門職をあてることも大切。また、人権尊重の精神が重要。さらに、地域での助け合いも同様にとっても重要。

委員：3, 500件とは？

委員：虐待に絞ると年間100件くらい。

事務局：相談件数の延べ数である。

委員：警察と連携しているか？

委員：警察、家庭相談員、児童相談所、教育機関が連携している。しかし、警察など事件が起こってからでないと具体的に動けないこともあり、市の役割は非常に重要。

会長：南押原地区の取組みで幼児サロンがあるが、そこでは子供をボランティアが預かり、保護者は保護者同士で話をする。このように孤立しない取組も重要。

【裏面に続く】

4「教員の指導力向上」 資料3-4

委員：ICTは鹿沼の教員の長年の夢でありぜひ導入してほしい。勤務実態は7時に出勤し21～22時帰宅という状況。導入すれば子供たちとしっかり関わり地域を愛する子供たちを育てていく時間に当てていく。

委員：課題は財政面と考えているがどうか？

事務局：財政面だけではない。本市の進め方として一部の学校で試行的に導入し、今後、本格導入するという考え方である。実態からして先生方の使命感に甘えてきた感は否めない。機械に任せられる部分は機械に任せ、人でないと出来ない部分に注力できる環境整備が必要と考える。

会長：教員が人間教育に注力できるよう早急な整備を望む。

○ その他

委員：少子高齢化の進展に伴い、身寄りのない高齢者の増加が懸念される。施設利用手続きなども本人では難しいだろう。行政としてどのような支援が可能か検討してほしい。

会長：今回の委員からの意見の取りまとめについて、事務局から何かあるか。

事務局：本日の貴重なご意見は事務局で取りまとめ会長に内容確認後みなさまにご郵送させていただきます。後日、会長名で市長へ「答申」させていただき、6月から始まる次年度の事業計画づくりに反映させてもらうがよろしいか。

一同：了解。

○ 閉会

配布資料	・資料1	平成30年度「鹿沼市総合戦略」及び「地方創生関連事業」の目標達成状況一覧	
	・資料2	平成30年度「第7次総合計画」における主要事業一覧	
	・資料3	「特にご意見をいただきたい施策」について	
次回予定	令和2年5月		
記録者	企画課 山口		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	(公開の場合) 傍聴人数
			0人